

4. バングラデシュ

1) 政治・経済・民生の動向

(1) アジア経済研究所 「発展途上地域日本語文献目録」 1983-1989

年	文献件数	うち農業関係件数
1983	14	6
1984	33	9
1985	13	3
1986	26	5
1987	21	9
1988	24	10
1989	17	3
計	148	45

(2) 最近の新聞、雑誌記事 1990.4.- 1991.12. 8件

日経 91.10.16. 登場 カレダ・ジア女史 バングラデシュ初の女性首相ジア首相はバングラデシュ民族主義党（BNP）の総裁で45才、1981年 5 月に暗殺されたジアウル・ラーマン大統領の未亡人である。

Far Eastern Economic Review, 12 Dec.1991. A turning point.

2月の政権発足から10カ月を経過してジア首相の指導性が正念場にさしかかっている。

(3) アジア経済研究所 「アジア動向年報 1991年版」

長田満江 エルシャド政権の崩壊

1987,88年は2年続きの大洪水で大きな被害を受けた。1989,90年は好天で米と小麦の生産は飛躍的に伸びた。湾岸戦争の影響で、出稼ぎ者の外貨収入がなくなり、大きな影響を受けた。

2) 農林業動向

(1) 農業、林業、畜産業、漁業の生産高比率

国民総生産中農業生産の占める割合は47 %である。その内訳は作物77%、畜産10%、林業6%、漁業7% である。（M.Ahmed 1988. Bangladesh Agriculture.）

(2) 主要農作物生産高

担当：濱村 邦夫

表1 主要農産物の生産量 (1989.7/90.6. 暫定)

農作物名	単位	生産量
米	100万トン	18.3
小麦	100万トン	0.9
ジュート	100万バール	6.4
サトウキビ	100万トン	6.7
バレイショ	100万トン	1.3
油料種子	万トン	42.8
レンタル豆	万トン	51.5
タバコ	万トン	3.9
茶	万トン	4.4

出所：アジア経済研究所 「アジア動向年報 1991年版」

- (3) CAB (1982-91.10) 文献検索 バングラデシュの農林業 374件
TROSIS (熱研スライド情報システム) 検索 8件
TRODIS (熱研文献情報システム) 検索 4件
TROPIS (熱研印刷物情報システム) 検索 6件

- (4) 最近、藤田幸一(農業総合研究所、1993年)は「バングラデシュ農業発展論序説」によって、バングラデシュの農業発展をめぐる問題を包括的に論じている。

3) 農林業技術動向

(1) 在来技術

バングラデシュの農業は、サイクロンや洪水などの自然災害がなければかなり生産力が高い。確かに人口は稠密であるが、他方、耕地面積比率は高く、土壌は一般に肥沃である。

(2) 資源投入

灌漑普及率は 24% で、インドの 25%、ベトナムおよびネパールの 28% にほぼ同じである。稲の近代品種の普及率は 30% で、インドの 58%、ネパールの 36% より低い、タイの 13%、ラオスの 15% より高い。

肥料の投入量(成分量合計)は 86kg/ha で、マレーシアの 151kg/ha、インドネシアの 113kg/ha に次いで多い方である。

(3) 低投入持続的農業

生産を安定化させるためには、災害の軽減が重要である。窒素肥料節約の上からも、国民の栄養状態改善の上からも、雑豆類(pulses)の生産拡大が必要であろう。

4) 国立農業研究機関(NARS)の現況

(1) ISNAR 1989. A global database on National Agr.Res.Systems.

Personnel. 1986.

PhD	MSc	BSc	Subtotal	Expat	Total
131	732	289	1152	--	1152

Expenditure. 1984.

Current LCU (Taka) (millions)	508.4
Current 1980 LCU (Taka) (millions)	317.9
Current 1980 US\$ (millions)	
Atlas	20.06
PPP	65.10

(2) Longman Group UK. 1990. Agr.Res.Centres.

BD Agr.Res.Inst.

BD Agr.Univ.

BD Council Sci.Indust.Res.

BD Jute Res.Inst.

BD Rice Res.Inst.

BD Tea Res.Inst.

Fish.Res.Inst.

Inst.Nuclear Agr.

Integrated Farming Complex

Renewable Energy Res.Centre

(3) その他の機関

Sugarcane Research Institute	Ishrudi
BD Agricultural University	Mymensingh
Forest Research Institute	Chittagong
BD Academy for Rural Development	Comilla

5) 研究ニーズ

(1) 国家経済発展計画

1990年7月から1995年6月の間の第4次5ヵ年計画が1990年10月に発表された。この計画では、バングラデシュ経済の自給自足化を目標とし、食糧生産の伸び率を5%に設定している。(東南アジア便覧、1992年版)。この計画は、エルシャド政権の時代のものであり、その後、ジア政権に移行したので変更がなされているものであろう。

(2) 農業政策目標

バングラデシュは、労働人口の約75%が農業に従事し、国内総生産の約54%が農業生産に依

存する（東南アジア便覧1992年版）ため、農村開発が重要である。

長田満江（国際農林業協力協会「バングラデシュの農業」1980年）は、日本のバングラデシュに対する協力の方向として、次の諸項を上げている。

総合農村開発、農業組織強化、教育・調査研究、治水・灌漑事業、農業技術普及事業、農産物多角化事業、ポストハーベスト処理、食糧倉庫の建設、農村家内工業の振興。

(3) 農業技術研究目標

熱帯農業研究センターがバングラデシュで行う共同研究の課題として以下のようなものが考えられる。

イ. 洪水制御の研究

ロ. 窒素肥料の肥効（硫酸だんご）

三好 洋 1991 バングラデシュにおける水稻窒素施肥の効率化 農林業協力専門家通信 11(5)

ハ. 浮き稲、深水稲

ニ. ジュート、サトウキビなどの工芸作物

ホ. 西南部（スンダルバン）のマングローブ林

ヘ. 育種（ジュート、稲、小麦、サトウキビ）

6) 共同研究への戦略的アプローチ

(1) 首都に滞在するか、地方都市に滞在するか

(2) 基礎的研究をやるか、実用的研究をやるか

(3) 食料作物をやるか、園芸・工芸作物をやるか

(4) 長期でやるか、短期でやるか

(5) 直接的にやるか、間接的（IIMI経由）にやるか

7) 共同研究実施上の問題点

(1) 機材持込みの際の免税措置

バングラデシュでは免税措置がなされていない。

(2) JICAプロ、JOCVの活動との関係

(3) 生活条件

ダッカの生活条件は良い。

ダッカのホテル

インターコンチネンタル ホテル

シヨナルガオン ホテル

プルバニ ホテル

(4) 研究条件

バングラデシュには各国の援助が入り、援助ずれしている面がある。

研究課題などでも流行の最先端に行く考え方が入っているが、どれだけ中身を伴っているかは別問題である。